資料２

地域の公共施設のこれからを考えるワークショップ（坂井輪地域）

第１回ワークショップの結果概要（案）

2018 年 9 月 29 日（土）　坂井輪健康センター

1-1　課題について（課題分類に補足すべき事項）

【施設の維持更新】

- 現在の公共施設は、用途や利用年齢が限定されていたり、自由度が少ないために、利用率が下がっている。施設の量だけでなく、利用ルールも合わせて考えてほしい。
- 公共施設にある既存の機能から、不要な機能と新たに必要な機能のバランスをみながら、検討してほしい。
- コストや利用率では評価できない重要な公共施設もあるので、別の視点での評価も加えて検討してほしい。
- すべての人が満足できるようにすると、必要な事業にお金をかけられなくなる。参加者や利用者が少ない施設などを削減することも考えなくてはならない。
- トイレの洋式化など、今の社会のニーズに合わせた公共施設に整備してほしい。

【安心・安全】

- 近隣地域で事件もあったので、子どもの安全面は重点的に取り組むべきだ。ひまわりクラブが小学校内になることで安心・安全面での懸念も解決できるだろう。
- 保育園や児童館の周辺は、道路が狭く、死角が多いところもある。保育園送迎の車のスピードも早く、事故が起きないか心配だ。

【子育て環境】

- 財政がひっ迫することで、保育園削減で待機児童が出たり、子育て環境が悪化しないようにしてほしい。
- 保育園の送迎や公共施設へのアクセスは、自家用車がほとんどのため、十分な駐車場を整備する必要がある。
- 子どもの居場所や支援拠点を集積させたり、小学生と未就学児が一緒に過ごせるように機能統合させることで、利用しやすくなるのではないか。
- 少子化と言われている中、坂井輪地域は子どもが多いが、子どもが過ごせる十分なスペースがなかったり、屋外空間ではボール遊びができないなど制約が多い。子どもが自由に過ごせる場所を確保したい。
- 子どもをめぐる環境やニーズは大きく変わっている。子ども自身の視点も尊重したい。
- 子どもの居場所を地域住民が運営したこともあったが、担い手の高齢化などでなかなか人が集まらない課題がある。

- 学校が新設されることで、学区が複雑になる。学区を、子どもが一番近い小学校に通学できるように整理してほしい。
- 現在は子どもが増えているが、長期的には少子化が見込まれている。この先の少子化や異年齢交流のメリットも考え、小中学校の一体化なども考えてはどうか。

【地域の活性化】

- 自治会館のない自治会があり、活動場所の確保が重要となる。
- 現在失われた横のつながりづくりや地域への参加のきっかけをつくるために、お祭りのような地域の人が一同に会することができる空間ができると良い。坂井輪まつりは既にあるが、駐車場が近くになく不便だ。
- ある程度まとまった人数が収容でき、子どもの習いごとや発表会のできるホールがあると良い。
- 既存の公共施設では、料理教室などで使える施設が少ないので、多世代が利用できるようにしてほしい。
- まちづくりについて気軽に語り合える場や若い人の意見を取り入れられるような仕組みづくりなど、さまざまな人が楽しく地域に関われるようにしたい。

1-2　課題について（新たに追加すべき事項とその課題分類）

【高齢化】

・　高齢化が進んでいるので、利用率だけでなく、すでに利用している人の代替機能を考えたうえで、施設廃止等を検討してほしい。

【多世代共生・交流】

・　老人憩の家や児童館など地域の人が集う場が世代ごとに別々になっている。地域を活気づけるためには、多世代利用や人が自然に集まれる場を作ることができるようにしたい。

【子どもの一時預かり】

・　保育園の土曜日預かりでは制限があるため、平日夜や土日でも前日に連絡すれば、利用できるような子どもの一時預かりの場がほしい。

【駐車場】

・　車利用者が多い地域にもかかわらず、駐車スペースが少ない施設があり、混雑や事故発生が懸念されているので、十分な駐車スペースが必要だ。
・　施設間で駐車場を共有したり、乗り降りスペースを分ける、公共交通機関の利用促進など、工夫して駐車場不足を解消してほしい。

【民有地や民間建物との統合・連携】

・　公共施設だけ考えるのではなく、商業施設のバランスも考えたにぎわいの場を創出してほしい。
・　自治会館は、使用頻度が多いわけではないので、児童館やひまわりクラブとして活用してはどうか。
・　公共施設で新しい試みをする前に、民間施設を活用して NPO などが先行して取り組んでいきながら考えてはどうか。

【空き家・空き地の活用】

・　空き家が増えているので、公共施設だけで考えるのではなく、多世代交流ができる地域活動拠点として有効活用してはどうか。
・　空き家を自治会館として活用することで、治安対策にもつなげたい。空き家活用にあたっては、市からサポートしてほしい。

【運営方法】

・　公共施設の運営に、地域住民による有償ボランティア、民間団体の力を活用するなど、柔軟な運営ができると良い。
・　同じ施設で、昼間は高齢者支援、夕方は子ども支援をするなど、スタッフが複数の役割を担うことで施設を複合的・効率的に運営できないか。

2　課題解決に向けた方策（アイデア）、配慮すること

＜ひまわりクラブについて＞

・ ひまわりクラブが学校敷地内に入ると、施設面積も少なくなり、安全性も高まって良い。
・ 坂井東小学校グラウンド内にひまわりクラブを新設すると、グラウンドが狭くなって、子どもが過ごす屋外空間が減ってしまうことが心配だ。
・ ひまわりクラブ第２・第３は借地なので、返却するか、現在のニーズに合った新たな用途の建物整備に活用してはどうか。
・ ひまわりクラブの利用状況を把握したうえで、子どもの居場所として確保したい。
・ ひまわりクラブは車で送迎してもらって来る子どももいるので、駐車場を確保してほしい。
・ ひまわりクラブ第１のあった建物は、多世代交流の場として活用し、地域の大人と関わる機会を持てると良い。

＜新通小学校・新通小分離新設校について＞

・ 公共施設の会議室は予約ができないこともあるので、新設分離校が地域開放されるのは良い。新通小学校の余裕教室も地域開放してほしい。
・ 地域開放するする場所は多世代が自然に集まることができたり、子どもの居場所に地域住民が関わることができるようにしてほしい。
・ 新設分離校のボランティア室や余裕教室は、使える場所や用途を決め込まず、空いているときに柔軟に使用できるようにしてほしい。

＜坂井保育園について＞

・ 通園・通学時間は時間帯が重なるため、交通誘導員はいても、道路が混雑している。
・ 建物も老朽化が進み、駐車場も少ないので、小学校や民間建物の部屋など別の敷地に保育園を整備した方が良い。

＜坂井輪児童館について＞

・ 現在の児童館は十分なスペースがないので、保育園やこども園、小学校やひまわりクラブなどとの機能の集約化や民営化を検討してほしい。
・ 児童館が学校に移転した場合、土日利用やスタッフ増員など使い勝手が悪くならないようにしてほしい。

＜老人憩の家について＞

・ 老人憩の家は廃止予定になっているが、単身高齢者が入浴したりおしゃべりできるような場が確保されるのか心配だ。
・ 老人憩の家の機能は、空き家を活用したり、小学校内に多世代との居場所として機能を集約しても良いと思う。

＜坂井輪健康センターについて＞

・ 坂井輪健康センターの栄養指導室を地域活動に活用できるようにしてほしい。

＜各小学校について＞

・ 地域活動の拠点や、子どもも大人も楽しめる場や交流できる場として、学校をもっと開放してほしい。
・ 子どもたちが自由に遊ぶことができるように、学校を土日も開放してほしい。
・ 各校に学校田を整備し、田んぼや畑で食べ物の大切さを日々学ぶことができるようにしてほしい。

＜坂井輪地区公民館について＞

・ 公民館の会議室の予約ができず不便に感じているので、活動場所や会議室を拡充してほしい。

3-1　その他（検討を進めていく上での配慮事項など）

■　配慮事項

- 坂井輪地域は人口に対して、他地域に比べて公共施設が少ないところだ。ハード面だけでなく民間委託や用途の横断的使用など、ソフト的戦略も同時に検討していく必要がある。
- 坂井輪地域は、人口も増えているところにもかかわらず、コスト縮減ありきの考え方で、ネガティブな論調になっている。
- 子育て世帯も増えているが、昔から住んでいる人の視点も大切にしてほしい。
- 次世代への負担を考えると、いま公共施設の見直しを考えるのは大事だ。本来はもっと早くに手をつけるべきだった。今後は整備段階で、適正化の考え方を整理してほしい。
- 市の考えや具体的な案を示してもらった方が、アイデアを出しやすい。
- 現在の小学校の学区は人口や自治会数などがまちまちだ。学区の再編も視野に入れてはどうか。
- ワークショップだけでなく、これまでのアンケートの結果も共有して、議論を進めたい。
- 今回のワークショップは、新通小学校について考えるのか、公共施設全般について考えるのかわからない。
- 計画案ができるまでの過程がイメージできない。

■　期待

- 子どもが預けられる場所を充実させ、若い人が住みやすい地域であることをアピールし、若い夫婦を増やしたい。

■　懸念

- 坂井輪地域は西区内でも公共施設が少ない場所なのに、なぜ公共施設の見直しを行うのか疑問だ。足りない機能を増やす視点も必要だ。
- 公共施設は、赤字でも必要なものがある。施設の集約だけでなく、今の地域にとって必要な機能を整理したうえで、老人憩の家と地域の茶の間、ひまわりクラブとふれあいスクールなどのように重複したサービスを整理しながら、削減、集約などを考えたい。

3-2　その他（確認したいこと）

・　ひまわりクラブの登録数や実際の利用数の適正値をどのように決めているのか。
・　機能の複合・統合化の意見を言うときに、実現可能性や実際の制約などを考えずに意見を出してしまってもいいのか。
・　「新潟市財産経営推進計画」の公共施設の基本方針にある総量削減というのは、具体的な数値の設定はされているのか。
・　「地域の公共施設のあり方について（資料 1）」の凡例で、「圏域Ⅰ類（市民芸術文化会館、水族館など市を代表する施設）」とあり、西区は 4 施設あるとのことだった。どの施設か確認したところ、青山斎場、文化財センター、衛生環境研究所、食肉衛生検査所の 4 施設ということであったが、なぜ、これらの施設が、「市を代表する施設」として位置づけられるのか。

⇒（市から回答）

市民が日常的に利用する施設のみを位置づけているわけではなく、市にとって 1 施設は必要であると位置づけられた施設を圏域Ⅰ類としている。